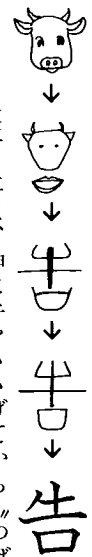


告

四年

画数 7
 筆順 ノ、ム、牛、告
 オン コク
 ついげる

成り立ち



むかしは大事な事は、神に牛をささげてから「つげ」ました。この牛を「犠牲」と言います。「告」は、犠牲の意味の「牛」と「口」とを組み合わせて作った字で、「神に「つげる」ことを表した字です。「つげる」とは「こばを口に出して言う（知らせる）」ことです。今では、「神につげる」という意味よりも、「人につげる」という意味に使われます。【例告知、報告】

使い方

▽いもうとが、ぼくのつまみ食いをおかあさんに告げ口したので、しかられました。

▽忠告というものは、めったに、人に聞きいられるものではありません。「忠言は耳に逆らう」といって、忠告というものは、いわれた人の耳には痛いものだからです。でも、心からためを思っている忠告には、すなおに耳をかたむけるのが、その人のためなのです。

熟語例

▽告知（告げ知らせること。「告知板」といえば、大切なことを、みんなに知らせるために置かれた板のことです。）

▽報告（告げ知らせること。とくに、仕事などをした結果について、知らせることをいいます。「会議の決定事項」について、報告した」などというふうに、つかいませ。）

▽忠告（心から、その人のためを思って、悪い所を告げて、直すようにすすめること。「忠言」ともいいます。）

差

四年

画数 10
 筆順 ノ、ム、ヤ、差、差
 オン サ
 さらす

成り立ち



「美（3年403）」の意味の「羊（3年431）」と、「左」の意味の「左」とを組み合わせて作った字です。

左の手で書いた字や、左の手で作った物は、右手で書いたものや作った物にくらべて、美しさに「ちがいが」があります。それで、その「ちがいを」を「差」という字で表しました。【例差異、差違、小差】

「ちがいの意味から「へだたり」「開き」という意味に使われます。【例時差、誤差、大差】

また、「光が差す」「腰に差す」「将棋を差す」「お金を差し出す」「人を差し遣わす」などと、「さす」ということばでの「あて字」として使われます。

使い方

▽ばくと、おとうとは、身長に二センチの差があります。

▽おとうさんと、巨人「阪神戦を観に行きました。巨人が大差で勝ったので、おとうさんもぼくも、満足して帰りました。

熟語例

▽差異（「差違」とも書きます。あるものと、べつのもとの違い、ということ。この品物は安いがあるのもっと高い品物とくらべても、大した差異はないなどというふうに、つかいます。）

▽小差（小さな差。違いが小さいこと。）

▽時差（世界各地の時刻の差。「東京とロンドンの時差は、ちょうど九時間です」などと、つかいます。）

▽誤差（くい違い。とくに、実際に測った時の値と、本当の値との違いをいいます。）

▽大差（大きな差。へだたりが大きいこと。）

▽千差万別（ものによって、いろいろと違いがあること。「人の好みというのは、千差万別だ」などというふうに、つかいます。）